

## 南三陸町総合計画審議会令和5年度第4回専門委員会議 会議の概要

- 1 日 時：令和5年7月21日（金）午後6時から午後7時40分
- 2 場 所：南三陸町役場2階会議室
- 3 出席委員：8名  
及川和人委員、小野寺成明委員、工藤泰彦委員、佐藤久一郎委員、田中郁子委員、芳賀英則委員、畠山扶美夫委員、山内義申委員（氏名カナ順）
- 4 欠席委員：6名  
伊澤仁寿委員、工藤大樹委員、高橋裕香里委員、高橋吏佳委員、星一敏委員、吉田信吾委員（氏名カナ順）
- 5 事務局：企画課 課長 岩淵武久  
企画課 課長補佐兼政策調整係長 阿部好伸  
企画課 佐藤悠
- 6 オブザーバー：ランドブレイン株式会社仙台事務所 姜守範
- 7 会議次第：
  - 1 開会
  - 2 内容 南三陸町第3次総合計画基本構想（案）について
  - 3 閉会

午後6時開会

（事務局）

定刻となりましたので、ただ今から南三陸町総合計画審議会令和5年度第4回専門委員会議を開会いたします。

今回は、「まちの将来像」、「まちづくりの理念」、「基本政策」の3本柱から構成される基本構想（案）について協議を行っていただきます。

はじめに、A3資料の「総合計画の構成イメージ」をご覧ください。現行計画における「基本構想」は、「まちの将来像」、「まちづくりの理念」、「基本政策」といった3本柱から構成されております。基本計画については、リーディングプロジェクト（重点的な取組）と基本政策に紐づく個別施策から構成されています。実施計画については、個別施策の具体的な取組・事業から成り立っております。

事務局として、次期総合計画では、基本構想を「まちの将来像」、「まちづくりの理念」、「リーディングプロジェクト（重点的な取組み）」、「基本政策」として進めたいと考えております。

基本構想においては、10年間の計画期間の中で変わることのないものとなります。基本計画については、前期の計画期間が5年、後期の計画期間が5年といった形とし、個別施策から構成されるものとします。

実施計画については、3年を目途にローリング形式で見直し、基本計画に基づく施策の具体的な取組みから構成されるものとして考えております。

今回、次期総合計画策定にあたり、構成を見直そうと思った理由は、皆様にもご議論をいたしました、リーディングプロジェクトが大きな要因となっております。これは、「まちの将来像」と「まちづくりの理念」を実現するために、総合的かつ横断的に実施をする取り組みとなります。そういう内容については、しっかりと10年ひとくくりで謳いたいと考えております。

その下に記載されている基本政策については、例として記載しておりますが、「産業・経済」、「教育・文化」、「福祉・子育て」といった、各分野の施策の集まりのような形になり、基本的には行政主体で、事務的に取り扱うという方向で、整理を行っております。その基本政策に紐づくものが個別施策となります。基本政策の中で例を挙げると、安全・安心なまちづくりといった政策が入ってきて、それに対し、個別の事業とすると、防犯対策の強化が挙げられ、それを実現するための具体的な事業内容となると、防犯灯の設置等が挙げられるといったような形で、政策、施策、具体的な取組みの事業といった形で関連性を持った形式で行っていきたい。図の下に記載

をしておりますが、「まちづくりの理念」及び「将来像」の実現を目指していくため、まちづくりの柱となる基本政策については、総合計画審議会での意見・要望、町民・企業アンケート結果、地区懇談会を踏まえ町において決定したいと考えております。

一方的な説明となりましたが、構想について質問等ある方はいらっしゃいますか。

(委員)

前は5年のリーディングプロジェクトだったのが10年になるということか。

(事務局)

10年になります。今見ていただいている資料ではリーディングプロジェクトについては、リーディングプロジェクト1からリーディングプロジェクト5と記載されているが、内容的なところは、この次のところで詳しく説明をさせていただきます。

参考までに、現行計画においてもリーディングプロジェクトが掲げられており、基本計画の中に現在のリーディングプロジェクトの落とし込みはされているが、5年スパンで見直しがされたかというと、実際のところ、見直しはされていない今まで当初掲げたリーディングプロジェクトがそのまま今の計画上も生きていることになります。

(委員)

それは見直しをする必要がなかったからしなかったのか、本来するべきところをしなかったのか、どちらになるのか。

(事務局)

後者になります。

(委員)

リーディングプロジェクトが10年間通して同じ内容で、今考えうる10年後にマッチしているかどうかイメージができない。もし、5年後にきちんとリーディングプロジェクトの見直しをやるという前提であれば、今までどおりでもいいのかもしれないし、今作るリーディングプロジェクトが10年後もその時代にマッチしているものでさえあれば、こっちの新しいものでもいいとは思うけれども、そこがどうかとは思う。

そもそも第2次計画が10年スパンで考えていたものが、やはり今の時代にマッチしなくなつて8年で変えるというのが今回の改訂。となると、ここからの10年も思い描いていたように進むのかというと時代の流れがどんどん早くなってきている気がするので、10年後から振り返ってみると、今のリーディングプロジェクトにずれが生じることになるのではないだろうか。イメージがわからない。

(委員)

私も少し長いかと思った。小学校に入った子供が高校生になるくらいのスパンなので、結構これからの時代、変わるものではないかという気がする。

(委員)

5年ひと昔というような感じで、時代がどんどん変化していくので、たまたまマッチしていればいいが、だいぶずれがありそうな感じがする。

(事務局)

例えば現在の計画、この表で言うと左側の内容で、理念と基本施策のところまでは基本構想の枠組みの中で、リーディングプロジェクトは時代の変化であったり社会情勢であったり10年スパンで時代にマッチしているかどうかを考えると、基本計画の中に今と同じような落とし方の方が良いと考えております。

(委員)

それはあくまでも5年後にリーディングプロジェクトをもう一回見直すという作業が前提でない、今までどおりではよくないと思う。今回は5年後に見直しますと言って見直さなかつたらそれこそまた意味がない。

(オブザーバー)

リーディングプロジェクトの中身にもよると思う。今はタイトルしか書いていないが、5年でそれなりの目標を設定できて、それなりの効果が期待できるようなプロジェクトが組めるかどうかというところも一方で現実的な問題としてあろうかと思います。事務局から出す案としては、まちづくりの理念を実現するためのプロジェクトという位置づけで10年設定したいということです。ただ中には当然5年くらいでそれなりの効果なり成果なりを見せなければならない課題があり、それに対するプロジェクトということであればそういう設定をしなければならないと思います。そういう観点で今ここにあげているプロジェクトが5年が適切なのか10年が適切なのかということを本当は内容とセットで考えないといけない問題なのかもしれません。

事務局としては、理念を設定しているので、それを実現するプロジェクトとして10年単位で考えたらどうかというのが今日の提案です。

(委員)

確かに10年というスパンでリーディングプロジェクトを考えるのであれば、それに見合った内容にすればいいということなのかもしれない。

(オブザーバー)

現行計画が前期から後期に変わるとときに見直しされなかったという話があったが、例えば基本構想に位置づけて、今後、後期計画の見直しの段階でリーディングプロジェクトの扱いをどうするかということを検討することもありかと思います。

(委員)

リーディングプロジェクトを基本構想に入れつつ、5年経ったらもう一回見直しをするということをしてもいいのかもしれない。

(オブザーバー)

リーディングプロジェクト1からリーディングプロジェクト5をみると、現行計画でリーディングプロジェクトに位置付けたものと全部変わっているわけでもなく、おそらく今後10年後にもこの中の大部分は手掛けなければいけないと思います。ただ、社会環境がどんどん変わっている部分もあるため、そこは柔軟に対応できる体制や、仕組みをどう整えていくのかが大事であると考えております。

(委員)

総合計画がどれほど、町にとって大事かという認識が皆さんにあればいいのかと思うが、作らなければいけないから作った、何も見直ししないで10年経ちましたではダメだと思うので、ここに書いてあることは皆さんが実現しようと思って実際取り組むということを一人一人が思わない、作った意味がない。

作って終わりではなく、作ったものをいかに実行していくかが大事なことなので、そういう意味では10年でも5年でもしかしたらいいのかもしれない。総合計画を大事に思っていれば、5年経ったときにこれでいいのかどうかという必然的に見直しの会議があつてもいいだろうし、作ったものをどう活かしていくかということまで認識していかないといけない。

(事務局)

リーディングプロジェクトは、スタンス的には基本構想の中に10年、ただ時代の流れや社会の変化にマッチしないところが出てくる等、場合によっては中間見直しのタイミングで直していくというようなスタンスも取れるのかと思います。

将来像と理念が10年間という設定の中で重点的な施策の取組みとして、打ち出したいという

思いで基本構想の中にいれさせていただければと思います。

(委員)

了解した。

(事務局)

計画の構成イメージとしては、事務局の方で提案させていただいた右側をベースとさせていただき、状況をみて5年、10年という枠組みにとらわれず、見直しが必要な時に随時手をかけていくというスタンスで進めさせていただきたい。

続きまして、南三陸町第3次総合計画基本構想（案）について、説明をいたします。皆様に配付をしている南三陸町第3次総合計画基本構想（案）をご覧ください。

前回の第3回専門委員会議の振り返りも含め、説明をしていただきます。それではよろしくお願ひいたします。

(オブザーバー)

当資料は、次期総合計画の骨格を決めていくものとなっております。次期総合計画の将来像のイメージとして4つを掲げておりますが、こちらは、前回までの専門委員会議で、議論いただいたことを踏まえ、事務局にて案のパートンを替えて、序内を含め協議を行った内容となっております。前回まで、グループに分かれて意見を出し合ってもらいましたが、その中で「ひと」が一番重要であるとの共通の話がありました。また、南三陸町第2次総合計画の「森里海ひとのちめぐるまち 南三陸」をベースとし、ひとを先頭に移動させました。

その結果、「ひと森里つながりあうまち 南三陸」としました。前回「幸せに暮らせる」や「質の向上」といった言葉を皆様からいただきました。それを基に、イメージ1の前回の案に対し、「ひと・自然がつながる元気なまち 南三陸」、「ひとと自然が輝き 未来へつながるまち南三陸」、「ひとと自然が輝き 未来へ歩む 南三陸」といったイメージも事務局にて用意をいたしました。

本日は、総合計画審議会が25日予定されていることもあり、この将来像についてどのイメージが一番よいのか、また、どのイメージが一番よくないかをひとりひとりの意見をいただきたいと思います。リーディングプロジェクトについては、前回皆様にいただいた意見をまとめたものです。それらをまとめると、資料の一番下の青文字の項目となります。リーディングプロジェクトについては、前回説明をいたしましたが、自治体が手掛ける施策があり、リーディングプロジェクトはそれを横ぐしで刺すような横断的なものとなります。それでは、お一人ずつお願ひいたします。

(イメージ1) 「ひと森里海つながりあうまち 南三陸」

(イメージ2) 「ひと・自然がつながる元気なまち南三陸」

(イメージ3) 「ひとと自然が輝き 未来へつながるまち南三陸」

(イメージ4) 「ひとと自然が輝き 未来へ歩む南三陸」

(委員)

私は、イメージ1がよい。他のイメージに出てくる「自然」という言葉はぼんやりしており、「ひと森里海」といった方がインパクトがあるような気がする。逆に、イメージ3は将来像としては違うかなと思う。「自然が輝き」というのは、文学的過ぎる。

(委員)

私もイメージ1が良い。「ひと」が一番最初にあって、「森里海」が繋がりあって、良いと思うし分かりやすい。将来像のイメージとして違うと思うものはない。

(委員)

4つのイメージを見ると、内容としては1がよい。しかしながら、文面が長い気がする。言葉の流れも悪い。里海を前にして森が後ろにきて、輝く南三陸など。「つながりあうまち」というのはちょっと長い気がする。もう少しコンパクトにした方がよい。将来像のイメージとして違う

と思うものは4であり、一般的で当たり前すぎる印象である。

(委員)

イメージ1が一番いいが、イメージ4の「未来へ歩む南三陸」という言葉がとても前向きでいい言葉であると思う。この言葉を上手く語呂合わせできないか検討してもらいたい。イメージとしてこれは違うと感じるものはない。

(委員)

イメージ1がよい。「ひと森里海」と南三陸を表す言葉が入っているため。前回の「いのちめぐるまち」の循環をイメージさせるテーマが良かった。循環という言葉は、赤ちゃんが生まれて次の世代にいくというものが、森も里も海もそれぞれの循環がお互いに絡み合うまちというイメージを与えていると感じた。イメージとしてこれは違うと感じるものは3である。長すぎるし、「未来に歩む南三陸」の方がコンパクトで良い。

(委員)

イメージ1がよい。しかし、「いのちめぐるまち」という言葉の方が、「つながりあうまち」より南三陸にぴったりかと感じる。前委員の意見と全く同じである。イメージとして、特に悪いというものはないが、他は普通だと感じる。南三陸らしさがあまり伝わらない。

(委員)

イメージ1がよい。抽象的でなく分かりやすい。「自然」だとぼかし過ぎている。イメージとして違うと感じるものはない。

(委員)

イメージ1がよい。他の委員と同じく「いのちめぐるまち」が馴染んできているので、絶対に変えなければいけないというわけではなければ、「いのちめぐるまち南三陸」という表現を残すという案もありであると思う。「いのちめぐるまち」というのは、10年間だけのキャッチフレーズではなく、そもそも南三陸のキャッチフレーズになるのではないかと思っている。イメージとして違うと感じたものはないが、「自然」というのは抽象的で、「ひと森里海」が入っている方がいい。

(オブザーバー)

皆さん、ありがとうございます。全員一致でイメージ1が良いということだが、「いのちめぐるまち」というセンテンスの方がむしろ良かったのではないかというご意見が多かったように思います。25日の総合計画審議会にて報告させていただきます。

次に、リーディングプロジェクト（案）について説明をいたします。

「未来を担う世代の暮らし充実プロジェクト」については、先ほど、説明をしたとおりです。これから世代を担う、子ども達を育てていくためには重要なプロジェクトあります。

「多様なコミュニティの構築・発展プロジェクト」については、こちらも皆様に以前課題の検討をいただいた際に、新しいコミュニティはなかなか構築できるものではなく、東日本大震災後、生活スタイルが変わったため、近所との人付き合いや、行き来が希薄になっている。このプロジェクトについては、本腰をいれていかなければならない内容であると思います。高齢者の方に着目をし、地域ぐるみで付き合っていくことを踏まえれば、女性の活躍や生涯学習、スポーツなどの面も考えていかなければなりません。

「交流人口の拡大プロジェクト」については、観光の他に、震災で生まれた繋がり等、これまでになかった形で取り組んでいく必要があります。

「地域資源の有効活用プロジェクト」については、南三陸町の大きな特徴としては、森里海や地域の方々の暮らしを構築していくことが必要となります。委員からもネイチャーポジティブという意見が出たように、そういう点を踏まえて取り組んでいく必要があります。

「持続可能なまちづくりプロジェクト」については、DXであったり、再生可能エネルギーの導入に対応していくことが求められます。今の説明について皆様からご質問はありますか。

(委員)

文化財的なものはリーディングプロジェクトの中に入ってるのか。

(オブザーバー)

「未来を担う世代の暮らし充実プロジェクト」に入れることもできるし、「多様なコミュニティの構築・発展プロジェクト」の生涯学習に入れることもできる気がします。

広い意味では、「地域資源の有効活用プロジェクト」の地域資源という捉え方もできるかもしれません。プロジェクトの詳細を今後考えていくときにその辺りも念頭に入れて企画していきたいと思います。

(委員)

「交流人口の拡大プロジェクト」の関係人口の創出とは。

(オブザーバー)

これは創出ではなく活用かもしれません。

(委員)

先程、伝統芸能という話もあったが、お祭りは正に文化であるし、人を繋ぐものなので、地域資源として大切なものだと思う。コミュニティの構築にも繋がり、次の世代への暮らしにも繋がるし、「未来を担う世代の暮らし充実プロジェクト」、「多様なコミュニティの構築・発展プロジェクト」、「地域資源の有効活用プロジェクト」にも繋がる。

(委員)

「交流人口の拡大プロジェクト」の交流人口には、平成の森やベイサイドアリーナ、キャンプ場の活用も含めた方がいい。

(オブザーバー)

スポーツイベント、スポーツ合宿、キャンプ関係というくくりになることが考えられます。

(委員)

1ヶ月後半くらいでも、平成の森キャンプ場は結構人が来ている。もっと宣伝等を行った方がよい。

(委員)

もっと民泊を宣伝したほうがいいと思う。志津川は、震災前に民泊が結構あった。震災後、コロナウイルスの感染拡大が流行する前までは、子どもたちの体験学習があり、各家庭に民泊していた。民泊のノウハウはあるので、宣伝したらよいと思う。

(オブザーバー)

それは一般の家庭にということですか。

(委員)

宮城県の特例で、一般家庭でも教育的な目的であれば許可なしでも泊められる。

(委員)

学校の子どもは、1クラス20人いるかいないかという状態で、一軒に3人から4人が分散して泊まると、クラスで体験発表する場合には10組程度の震災時の体験が聞ける。その後の防災にも繋がる。

(オブザーバー)

子どもたち向けの民泊であればその親との繋がりも生まれる可能性があるということですね。

(委員)

今、民泊をしている家庭は10軒程。震災前だと120軒くらいはあった。外からのオファーは、100から300人と規模が多いため、80軒から100軒ないとできない。住宅事情も公営住宅になり、そもそもできないのが現状。全部お断りして他の町・他県に流れている。今はホテルや民宿をお勧めしている。なかなか世帯数も限られていて、全世帯に声をかけたとしても、難しい。

(委員)

10年間の計画づくりに参加しようと思ったときに、10年後の南三陸を想像しないといけないと思ったが、なかなか想像できなかつた。1つだけ思ったことは人口減少。人が減るということを受け入れいかなければならないと思う。決してマイナスと捉えるのではなく、減ってよしとするくらいの心構えがベースになると10年経つて更にそこから10年経つとずっと続していく問題だと思う。

総合計画のプロジェクトは5個あるのはいいが、おそらく人口減少という問題が全てのプロジェクトに結構な影響を10年後くらいになると及ぼしているのではないかと思っている。おそらく今の人口は12,000人を切ったが、10年後には8,000人台から9,000人台になっている。今的人口だったらこのプロジェクトが機能するかもしれないが、減った中でやっていかないといけないという人口減少を受け入れるベースがないと、どのプロジェクトも機能していかないのではないかという思いがある。人口減少を正面から受け止めて、それも良しとしながら進めていくという視点が総合計画のどこかにあってもいい気がする。

(オブザーバー)

現行の第2次総合計画では、リーディングプロジェクトの1つ目は移住定住人口増加プロジェクトでした。移り住んでもらうためには世の中全ての市町村が移住定住を頑張っている中で選んでもらわないといけないとなると、何らかの魅力やプラス要因がないといけないということになります。働く場であったり、子育て環境なり、それぞれの魅力を高めていくような取り組みをしていかなければなりません。

(委員)

諦めた訳ではないが、現実を見ながら交流人口を拡大していくというのが大事だと思う。そこで観光産業で就職できる方がたくさん増えて、若者が増えて、子どもが増えてということに繋がっていく。ただそれがマイナスを補って維持できるくらいのものになるというのは現実的ではない。逆転の発想や価値観を変えていくことも必要。高齢化率が高いということはマイナスイメージに捉えるとマイナスになるが、高齢化率が高いのは本当にマイナスなのか。おじいちゃん、おばあちゃんが元気に暮らして長生きできる町という意味ではいい町だなとも思う。そういう発想の転換を図りながら、現実をしっかりと受け止めていかないといけない。絵に描いた餅で絶対現実不可能なことを謳うよりも、そういうベースを受け入れた中で、南三陸らしい持続可能性があるのでないだろうか。その方が南三陸らしい。他がマイナスに捉えることもプラスに捉えて、それすらも積極的に受け入れながらやっていく町だとすれば、面白そうだなど人が集まってくるかもしれない。

(オブザーバー)

どこの町も年齢別の人口を見ると、20歳のあたりで急激に減少し20代後半からプラスになってくる。プラスになるのは出ていった人が戻ってきているケースがほとんどです。一旦都会に出ていってもいずれ帰ってくる部分をどれだけ増やすかということが中心の話題になります。

(委員)

この町には、中国やフィリピン等、結婚を機に住んでいただいている人が結構多い。200人くらいいた。震災後、その部分がなくなってしまった。以前は、国際交流協会で日本語の教育事業もやっていた。そういう機会があつていろんな人が来れますよという受け皿だけは作っておきたいと思う。

(オブザーバー)

「持続可能なまちづくりプロジェクト」で人材育成とあるが、地域の担い手としても捉えていくことはできる。

(委員)

今は外国から来た人が地域のコミュニティに入っていくことはなかなか容易なことではない。

(委員)

前は間に入ってやれる人が、育てていただいて馴染めない人のフォローもしてくれていた。やはりそういう仕組みは必要。

(オブザーバー)

多文化共生という交流的な意味合いもあるが、地域の担い手として位置付けるということもある。「未来を担う世代の暮らし充実プロジェクト」や「持続可能なまちづくりプロジェクト」にも関わってくるかもしれません。このテーマでよろしければこの後、皆様からいただいたアイディアをもう少し文章化していく作業になるので、ある程度たき台ができたらご覧いただいてご意見をいただくような段取りになります。リーディングプロジェクトとしてはこういったところでよろしいでしょうか。よろしければ、この5点で具体化の検討を進めていきます。

(事務局)

最後になりますが、資料の「南三陸町第3次総合計画基本構想（試案）」をご覧ください。

基本構想の試案となります。この内容で確定ではございません。今時点の素案として、構成を含めてこのような形のものが、新たな総合計画となります。

1ページ目の「総論」をご確認ください。こちらには基本構想の中で、計画策定の趣旨であったり、計画の位置づけ、計画の構成と期間について記載している箇所となります。会議の最初にご説明を行った構成の部分とも関連しております。

2ページ目には、実施計画として基本構想から実施計画までの基本的な考え方を年表で表しています。

3ページ目は、本町の概要となっております。この概要の部分については、第2回目の専門委員会議において資料としてお渡ししていた部分を人口等抜粋する形で載せていますが、詳細の内容については、精査をする予定です。

4ページ目は、人口世帯数の推移ということで、平成22年から令和2年の期間の中での人口世帯数の推移を表したものになります。実際には可能な限り、最新の住基データを用いて対応したいと考えております。国勢調査の数字についても有効的に活用したいと考えております。

5ページは、産業・財政状況を記載しておりますが、最新のデータを活用し作成を進めたいと思います。今回はイメージ的なものをつかんでいただければ幸いです。

6ページと7ページは、「経済・社会動向」ということで、第2回の専門委員会議にてA3資料で提示をさせていただいた内容と関連しております。こちらについても、掲載の内容やレイアウトを含めて、再度確認をしながら進めていきたいと思います。

8ページから10ページまでは、「町民意向」とということで、昨年実施したアンケート調査を抜粋して主要な箇所を掲載したものです。

11ページから13ページまでは、「まちづくりの課題」とということで、第2回専門委員会議で皆様に、意見、議論を行っていた部分と第3回目の専門委員会議においても一部関わってきた箇所を結果を踏まえながら掲載していく予定です。掲載内容は今後、見直しを行ったうえで進めていくことをご理解願います。

14ページは、「まちづくりの理念と将来像」とということで、これまでの話し合いの結果をまとめたものを記載しております。将来像については別紙で説明をしたとおりです。

(委員)

出生数46人は南三陸町全体でということか。

(事務局)  
全体です。

(委員)  
現在、町内の小学校が5つあるが、均等に割っても9人。とても少ない。

(事務局)  
出生数は令和に入ってから4年間ずっと60人を切っております。

(委員)  
1学年仮に50名とすると0歳から80歳まで50名をずっとキープすると人口4,000人。いつかはそういう時がくるのかと思う。団塊の世代が今は多いので、その方達が後20年経過すると一気に人口減少が進む。南三陸町は高齢化率が県内で1位になった方が個人的にはよいと感じている。町民が、健康で長生きしている人がたくさんいるのはアピールになる。

(委員)  
高齢化率はつい先日新聞に掲載されていたが、県内で8位か9位だった。

(委員)  
もっと上だと思っていた。

(オブザーバー)  
グラフの見方が、3本線があるが、一番下が何もしないところなるという線です。その上は出生率が2.1になるとこうなるというものです。一番上が2.1になって更に入ってくる人と出でいく人がプラスマイナス0にならざるといふものになります。出て行ってしまう人が多い中で、外から入ってくる人を増やさなければいけません。プラスマイナス0にしたとしても緑のラインのように減ってしまうという状況です。

(委員)  
黒の線が現実的な話で、実際にこれを下回らなければいいという話かもしれない。だから減ることを悪いことだと思わない方がいいのではないかと感じる。全国共通の課題であると感じる。南三陸町だけ増えることもありえないし、増えたとしたらどこかは減っているだろうし、この町だけよければいいという考え方はそもそもどうなのかというのもある。減ることを良しとして町の計画を作っていく方が健全だと思うし、いち早くそれを表明した方がいいのではないかと思う。

(オブザーバー)  
関係人口という言葉が最近出てきたのもそこであり、何も住む人を増やさなくても何らかの形で外から関わってくれる人が地域の活動などに参加してもらうという考え方がベースにあります。そういう意味では、南三陸町は他との繋がりはだいぶある方だと思いますので、そこに着目するのも重要かもしれません。

(委員)  
移住は、観光客の取り合いより更にハードルが高いところ。皆同じ課題を抱えているので、それこそ手厚い合戦であったり、都市部から近い方が有利であったりする。積極的に推進といつてもかなり刺さるものがないと無駄になる可能性がある。若者の移住促進と言っても、大学卒の若者がたくさん来ても結婚しなければ出生率は上がらなかつたりする。どの分野の人が欲しいのかかなり明確に決めてそこに狙い撃ちをしないといけないと思う。近隣市に暮らした方がよっぽど安心・安全なわけなので、ぼやっと若者の移住政策だけは辞めた方がいい。就労にはつながるかもしれないが、子どもを産まなければ増えないし、3人家族を取りたいのであれば、住宅の支援や学校の支援とかの連動性がないといけない。そう考えると、交流人口、関係人口の方がよりとっつきやすい。その辺りがこの計画の肝になる部分かと思う。

(委員)

強みをより強くして、マイナスに少ない資源を投入するよりは、強い部分に投入していく方がいい。「交流人口拡大プロジェクト」みたいな難しい言葉ではなく、「行きたくなるまちプロジェクト」や人が集まって来なくなるようなイメージのプロジェクト名をつける方がいいのではないか。資源を投入する場所は絞るのが大事かと思う。

(委員)

みねはた団地は4月頃に50世帯だった。空き地が3区画空いていた。それが昨日地盤調査していたので、もしかしたら誰かが建てるのかと。年度内くらいに残りの2つももしかしたらと思う。そういう意味だったら、宅地を安めに提供すれば、移住にも若干繋がると感じる。団地が出来て7、8年。その時に10何区画余っていたのが今こうなっているので、若い人達が地元に家を建ててということはある。それも1つの案かと思う。

(オブザーバー)

リーディングプロジェクトの具体的な中身に対するアイディアみたいなものは、ぜひ皆さんで議論していただいた方がよい。

(事務局)

本日の資料は、まだ試案の状況なので、基本構想の構成がこういうものだということで、ご認識いただければと思います。

来週、総合計画審議会があるので、本日皆様方からご意見をいただきたい、将来像の部分とリーディングプロジェクトの部分を審議会にお諮りをして決定していきたいと考えております。

総合計画審議会の結果は改めて皆様方にフィードバックさせていただきます。

最後に、来月予定をしている地区懇談会の日程は、8月7日の月曜日、8日の火曜日、9日の水曜日の3日間で志津川、歌津、戸倉、入谷の4地区で公民館を会場に開催します。場所は、志津川地区は8月7日の18時30分から生涯学習センター、8日は15時から歌津公民館、9日は15時から戸倉公民館と18時30分から入谷公民館となっております。時間は、1時間から1時間半くらいの予定で、基本構想の基本的な考え方は、このようなもので新しい計画を進めたいと考えているということについて資料を提示した上で参加した皆様からご意見をいただく予定です。

なお、次回の会議の日程については、8月28日の月曜日、18時からこの会議室を会場に行います。

本日はお忙しいところご参加をいただきありがとうございました。大変お疲れ様でした。

午後7時40分終了